

第2回養徳学舎活用検討会

資 料

現状と検討のポイント

◆現状

- ①養徳学舎の設置目的は「共同生活を通じて、社会貢献できる人材を育てる」こととなっているが
 - ・入寮生の勉強、就寝、食事といった生活を送る場という役割しか果たせておらず、社会貢献できる人材を育てるための具体の取組ができていない。
 - ・入寮生間の交流を促すべく1階にスペースを設けているが、新型コロナウイルスの影響や学生の意識の変化等により利用が低調で、有効活用ができていない。
 - ・卒寮後、奈良県とのつながりが希薄になっている。
- ②首都圏における公的な男女寮や女子寮は増加傾向で、また、本県女子学生の東京圏への進学率は大幅に増加している。
(2.8%(H18年)→6.6%(R5年))

◆検討のポイント

- ①施設の有効活用の観点やポテンシャルの高い立地条件等を鑑み、どのような機能を持たせれば良いのか。
- ②現在、男子学生の受け入れのみであるが、今後もこれを継続するのか、それとも女子学生も受け入れるのか。
- ③主に公費を使い施設の整備を行ったことから、公益性をどのように確保するのか。

◆第1回検討会の実施（令和6年10月22日）

◆高校生及び在寮生へのアンケート
（令和6年11月1日 ～ 11月18日）

◆在寮生、OB、東京在住県出身女子大生等からの意見聴取
（令和6年11月19日，12月2日）

➡いただいた意見を踏まえ、活用案（素案）を検討

(1) 機能強化について

主な意見（抜粋）

【第1回検討会】

①交流機会の創出や人材育成の取組

- ・スタートアップ企業は若い人との接点を求めている。一緒に住んでもらい、**交流の場が生まれるように工夫**すると良いと思う。
- ・関東の若者を奈良県に呼び込むために、**県内の大学や企業と首都圏に住んでいる若者との交流の場として活用**できないか。
- ・養徳学舎をもう少し開いた活用をすることで、寮生間のコミュニケーションだけでなく、**色々な方々との交流の場**にできれば良い。
- ・マーケティングで新商品の相談を受けることがあり、そういった接点でも活用できればと思う。

②奈良県とのつながり

- ・経営者という立場で人を採用したいと思った時に、近いコミュニティから来てほしいという思いで卒寮生を採用したケースもあると聞いている。**現役学生とOBが交流できるような仕組み**を作れば交流も進むのではと思う。
- ・これからはどこでも働けるし、どこでも住める社会になっていくと思う。**奈良に興味を持つとか奈良に愛着を持つというものとセット**にすることで、結果的に奈良に関わることになれば良いのではないか。
- ・奈良県出身の学生が急な経済的困窮に陥った場合、**東京で頼れる場所**があるのは重要かと思う。
- ・学生に東京に養徳学舎があることを知ってもらうための**周知方法を改めて確認することが大事**。

(1) 機能強化について

主な意見（抜粋）

【在寮生、OB、東京在住県出身女子大生等からの意見】

①交流機会の創出や人材育成の取組

- ・ 学生でルールを決めて学生で運営していくことが養徳学舎の大きな魅力であるが、例えば交流する機会への参加など、少し強制的に巻き込むような体制もあればよかったと思う。
- ・ まほろば館がイベントに出店する際、寮生にも来てもらえば、アンテナショップとのつながりを持てると思う。
- ・ 「ふるさと奈良の集い」へ参加したが、（奈良県関係者との）コネクションができてよかった。
- ・ 会社で仕事を作る立場になり、学生の力を借りたいときに、自分の出身である奈良県や寮生でかつスキルマッチングできる人材がいれば働いて欲しいと考えている。

②奈良県とのつながり

- ・ 奈良でのキャリアを知ることができる機会が増えれば、奈良への愛着も湧いてくると思う。
- ・ 寮生活は学生生活の一部にすぎず、どれくらい寮にコミットするかは人によってかなり差があるので、OBや社会人と積極的に交流したい人ができるような体制があればいい。
- ・ 在籍当時から養徳学舎OBと現役生の繋がりが希薄であると感じていた。

【アンケート（高校生・在寮生）】

①交流機会の創出及び②奈良県とのつながり

- ・ 「奈良県にゆかりのある方々との交流の機会を設けた場合、参加してみたいと思うか。」という問いに対して、「思う」と回答したのは、高校生が31／194名、在寮生が13／24名。
- ・ 交流を希望する方は、高校生では「奈良出身で東京で起業している方」が22名、「養徳学舎OB」が8名の順で、在寮生では「養徳学舎OB」が7名、「奈良出身で東京で起業している方」が6名の順で多かった。
- ・ 養徳学舎において企画・実施してもらいたいことは、在寮生からは「寮祭」、「企業説明会」などの希望があった。

（１）機能強化について

事務局素案

方針

県では人口減少や若者の県外流出が深刻な問題となっている。特に若者の多くが進学や就職を機に県外に流出し、そのまま戻らない傾向があるため、養徳学舎に寮としての機能に加え、東京奈良県人会や養徳学舎OBなどと学生が交流できる取組などによって、**奈良県と学生とのつながりを強化し、奈良への愛着を持てる新たな拠点**とする。

また、養徳学舎に、学生、県、企業等をつなぐ交流機能を持たせることで、**東京圏において奈良県関係者が集う場**とし、学生が地元企業に関心を持ち、**奈良で働くことについて考える機会**をつくる。

さらに、奈良県出身者や県内企業、地域住民をはじめ多様な主体との交流を通じ、**社会や地域に貢献できる人材を育成**する。

(1) 機能強化について

事務局素案

取組内容

● ソフト面

a 奈良県を知る・関わるための取組促進

- ・ 奈良県イベントへの参加機会の提供（奈良県の自治体や企業と連携し、学生が地域活性化に貢献できる場を提供）
- ・ 地域文化を知る取組の支援（奈良の歴史や文化を学ぶ講座やワークショップに学生が参加できるよう支援）

b 奈良への愛着の醸成

- ・ 奈良出身者が集まって交流できる場の提供
- ・ 東京奈良県人会等との連携強化

c Uターン・Iターンの推進

- ・ 奈良県内企業と連携し、養徳学舎の寮生だけではなく、奈良県に興味がある首都圏の大学に通う学生に対し、養徳学舎OBとの交流会や就職フェア、奈良での生活に関する相談会を開催

d 社会や地域に貢献できる人材の育成

● ハード面

a 地域交流スペースの設置

- ・ 学生が企画したイベントなどの開催や、県内企業や地域と交流できる地域交流スペースを設置

b 学習・コワーキングスペースの設置

- ・ 奈良出身の社会人や東京での就活生、インターン生などの東京での活動拠点となるスペースを設置

(1) 機能強化について

事務局素案

検討項目

- ソフト面

- a 取組の推進体制（寮生主体、県の支援、業者への委託 等）
- b 寮生以外の利用に関するルールやガイドラインの策定

- ハード面

- a 寮生以外の利用者が増加することへの対策
（セキュリティーの強化、居住エリアとの分離 等）

(2) 女子学生の受け入れについて

主な意見（抜粋）

【第1回検討会】

- ・女子学生の受け入れは前向きに進めて欲しい。なお、セキュリティ一面はよく考えた上での改修が必要。
- ・トイレとシャワーは男女で鍵を分けたり、ランドリーも男女で分けるなど、ハード面での工夫が必要。
- ・フロアをジェンダーで分けるより、バラバラにできると良いのでは。ただし、運用面でのケアと学生に向けた研修やガイドンスのセットは必須。

【在寮生、OB等からの意見】

- ・養徳学舎に女性を混ぜるよりは、違う場所に新しく寮を作った方が現実的と感じる。
- ・男性しか入れないという状況が不自然だと感じており、女性を受け入れる体制を整えることは必要だと思う。
共用寮とするのか、完全に分けて運営するのかについては、交流機会の促進という面からも共用寮の方が魅力的だと思う。
- ・高校まで男子校だった在舎生も多く、社会に出る前に異性と交流できるのは有意義だと思う。

【東京在住県出身女子大生等からの意見】

- ・お風呂や洗濯場所の部分で動線が分けられていて、部屋のロックやセキュリティが納得できれば男女共用寮については良いと思う。
- ・以前いた男女共用寮は、男女共用部分は1階の玄関、キッチン、ご飯を食べるスペースのみだった。キッチンでは、男女の交流があったので、男女共用寮は魅力的だと感じる。

【アンケート（高校生・在寮生）】

- ・「今後、男女共用の学生寮とすることについて、どう思うか」という問に対して、「良い」と回答したのは、高校生が49／194名（「良くない」が12名、「どちらでもない」が133名）、在寮生が7／24名（「良くない」が8名、「どちらでもない」が8名）であった。
- ・高校生からは「女性にも同様に選択の幅を提供すべき」や「女子でも都市圏の大学に通いやすくなる」、「男女共用にすると、男子の入寮できる絶対数が減るので、女子寮も作ればよい」などの意見が寄せられた。
- ・在寮生からは「女性の大学進学の実選択肢が増える」、「居住スペースの分散ができない」、「男子寮の良さがなくなる」といった意見や、「突然、男女共用の寮にするという動きが出てきたが、慎重を期すべきである」と考える。しっかりとした調査、先例などを確認して「形式的」な男女共用にならないよう願う。」という意見も寄せられている。

(2) 女子学生の受け入れについて

事務局素案

方針

本県女子学生の首都圏への進学率が高くなっており、女子学生に対しても学生寮の提供は必要で、他の自治体でも、男女別、あるいは男女共用の学生寮を運営するケースが増えている。また、本県では、大学進学や就職を契機に首都圏をはじめ、県外に流出する若者が多いことを鑑み、東京で学んで、奈良に戻ってきて活躍してもらえる人材を育成するよう養徳学舎の機能を強化させる上で、**その効果や便益をより多くの人に享受してもらうため、女子学生を受入れることとする。**なお、現状、施設や設備、生活ルール等については男子学生のための受け入れを前提としているため、**男女ともに住みやすい学生寮**となるように、ハード面・ソフト面両面にわたる検討を進める。

検討項目

● ハード面

- a 居住エリアの分離とセキュリティの強化
- b 防犯とプライバシーの両立
- c 女子専用の水回り設備の設置
- d 運営スタッフの勤務形態等（女性スタッフの必要性、常駐・非常駐 等）

● ソフト面

- a 男女が共同生活する上での意識の向上
- b 男女共用寮での生活への不安などに対するサポート体制
- c 生活ルールやガイドラインの策定
- d 従来の男子寮の良さの確保

(3) その他検討が必要な事項

現 状

初めて親元を離れ不安を抱えて上京する学生にとって、また、子どもを東京へ送り出す保護者にとっても、親代わりの舎監と同郷・同年代の仲間に囲まれる安心感は他には代えがたいものであることから、養徳学舎の主な受入れ対象は大学生としてきた。

一方、例年、募集人数を超える応募があるものの、志望校が不合格になったことによる辞退などにより、定員を満たしていない状況。

また、今年度から、大学の合格発表が早い学生も応募しやすくするため、募集時期を従前の1月から2月の実施であったものを、2回に増やし、1回目の募集を11月から12月に、2回目を1月から2月に実施するように見直したところ。

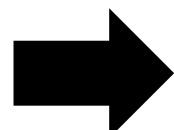
★応募人数の推移

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
新1年生	38 (14)	45 (14)	32 (14)	27 (12)	33 (14)	26 (14)

※ () 内の数字は、募集人数

★在寮生数の推移（各年度4月現在） 定員50名

年度	R1	R2	R3	R4	R5	R6
在寮生数(人)	38	44	46	41	40	44

 今後の応募状況や空室状況を勘案しながら、募集方法や入寮資格等について検討

今後の予定

会 議	日 程	内 容
第 1 回検討会	10月22日	① 養徳学舎の現状 ② 活用に向けた意見聴取
委員意見聴取、アンケート実施、在寮生等からの意見聴取		
第 2 回検討会	1 月17日	① 活用案（素案）への意見聴取
随時、委員意見聴取等		
第 3 回検討会	2 月下旬	① 活用案の報告